

変わる日本の「暮らし」と「まち」

住む人のライフスタイルに合わせて
自由な暮らし方ができる
新しい賃貸住宅の提案

MUJI×UR
団地リノベーションプロジェクト
(2012年・平成24年)

阿部民子

text by Jamiko Abe



illustration: Shigeyuki Sakata

白を基調にしたシンプルな空間、住む人がアレンジしやすい自由度の高い間取り、機能的でスタイリッシュな住宅機器。風が気持ちよく通り、光がふんだんにさし込む窓からは豊かな緑が見え、交通も便利。こんな条件がそろった賃貸住宅があったら……。そんなぜいたくな願いをかなえてくれるのが、無印良品とURがタッグを組んだ、「MUJI×UR団地リノベーションプロジェクト」の住まいだ。

高度成長期を支えた団地の誕生から約60年。日本の住宅のスタンダードをけん引してきたURは、いま新たな団地再生に取り組んでいる。そこに、暮らしのスタンダードを作ってきた無印良品が意気投合。団地に新たな魅力を吹き込むリノベーションがスタートした。

関西でのプロジェクトを皮切りに6年たった現在は、関東、名古屋、福岡など、41団地で展開。インテリアに関心が高い20代、30代を中心に、注目を集めている。

MUJIとURの強みを合体

3月3日からMUJI×URの新住戸入居者募集が始まるのが、京王相模原線南大沢駅から徒歩7分の多摩ニュータウン・ベルコリ



古き良きものを生かして時代に合った形にリノベーション

る。もともとは廊下を通じて東西に居室が振り分けられた3LDKタイプだったのを、部屋の仕切りや廊下の壁を取り払ってキッチンとLDKを連結。独立型のキッチンを壁のないカウンターキッチンに変え、広がりや家族の一体感を生む形に作り変えた。

MUJI×URの設計に携わるMUJI HOUSEの松本雄作さんは説明する。

「リノベーションにあたっては、『生かす』『変える』『自由にできる』をコンセプトに掲げました。既存のいいものは残し、新しくすべきところは刷新する。たとえば、年月を経て鉛色に色づいた柱や鴨居など、いまの若い人にとってピンポイント感があつて新鮮に映るものは、あえて残す。その代わりに、お風呂やキッチンなどは機能的で新しいものを取り入れる。そうすることで団地の魅力が生きるし、コストも抑えられます」

この住戸のキーワードとなっている「アート」もまた、古いものを生かしたことから生まれた。廊下の壁板をはがしたときに現れた格子状の木枠を利用。絵などを飾

れるディスプレイ式マガジンラックに再生したのだ。

「MUJI×URの住戸は、間取りもデザインも部屋によって異なるため、我々とURさんの技術部門の人が一緒に考え、一緒に作り上げる、まさに手作りです。URさんのスタッフは、みなさん熟練のプロ集団。喧々譁々の議論になることもありませんが、両者の意見を擦り合わせ、最終的に納得いくものを作り上げています」。

そうした無印良品の姿勢には、URも大きな刺激を受けたという。UR住宅経営部の小川絵美子は「それまでのURのリノベーションは、古いものは残さず、すべてきれいにするのが基本でした。それだけに、お客様の反応は大丈夫なのか、社内でもさまざまな議論がありました。URの厳しい社内安全基準に照らし合わせて懸念を1つずつつぶしていくなど、私たちにとても大きなチャレンジでした」と振り返る。

両者のコラボレーションは、住戸の改修だけにとどまらず、住宅設備などの共同開発にも発展。軽くて見た目のよいダンボールふす

まや、丈夫で洋風にも和風にもなじむ麻畳、テーブルとキッチンカウンターをフレキシブルに組み合わせられる組合せキッチンなどのオリジナル商品も誕生。両者のいい面が重なり合ってさらなる進化へとつながっている。

「コミュニティ」にも寄与

MUJI×URの試みは、URが取り組んでいる、多様な世代が共生する「ミクスストコミュニティ」の形成にも役立っている。エレベーターのない中層団地では、高齢者が敬遠しがちな4、5階に、若い層に人気の高いMUJI×UR住戸を設置。子育て層や2人世帯などが入居して、団地全体の活性化にもつながっているという。

「さらに」と松本さんが続ける。「3月には、ベルコリー南大沢にMUJI×URが手がけた集会所も完成します。ここは、食をテーマにしたシェアキッチンが特徴。高機能のコンロやガスオーブンを入れているので、家でできない料理を作ったり、持ち寄りパーティをしたり、さらに地域の方も巻き込んでコミュニティづくりに

も役立っていただけたとうれしいですね」

一方、小川は「いままでの賃貸は、とすれば自分の暮らしを部屋に合わせることが必要でした。でも、仕切りを極力排除したMUJI×URでは、収納家具を組み合わせる間取りを変えられるなど、賃貸だけど自由な暮らしができます。URでは、ほかにも女性職員が手がけた女性目線の部屋や、DIYが自由に行える部屋など、さまざまなプロジェクトを進めています。こうした取り組みが、URを知っていただき、『団地ってけっこういいかも』と思っていただくきっかけになれば」と話す。住む人と暮らしに寄り添いながら、団地は多彩な進化を続けている。

図書カード
プレゼント

本連載に関するアンケートを行います。ご参加いただいた方の中から、抽選で10名様に図書カード3000円分をプレゼントします。

詳細は次ページをご覧ください。

街に、ルネッサンス

UR 都市機構

一日も早い東北の復興へ 全力で取り組んでいます

【企画制作】新潮社